

# 自他を大切にし、ともに高め合おうとする子の育成をめざして

— 人とのかかわり合いを通して —

宮田小学校現職教育部会

## 1 はじめに

宮田小学校は、江南市の北西、木曾川を背に位置し、校区には、尾張きっての名刹「曼陀羅寺」がある。学校の歴史は長く、明治6年の分校開設以来、133年の年月が流れている。したがって、3代、4代と続けて本校に在学している家庭もあり、地域の方々の学校への親しみは大変深いものがある。しかし、この伝統ある宮田地区にも、近年、新興住宅地が広がりを見せ始め、保護者の価値観も一層多様化し、学校への要望も増加してきている。



本校の児童は、快活で知的好奇心が旺盛である。反面、自分本位で物事をとらえたり、友達と協力して目標に向かって努力をする態度が欠けていたりする面がある。

本年度、愛知県教育委員会の委嘱を受け、「自分づくり・仲間づくり」推進事業に参加することになった。この事業は、今、子供たちに求められている「生きる力」の核となる、豊かな人間性や社会性をはぐくむことをねらいとしている。

本研究では、主題を「自他を大切にし、ともに高め合おうとする子の育成をめざして」とし、本校児童の育成目的に合致した、この事業での取り組みを紹介する。

## 2 研究の仮説

自他を大切にし、ともに高め合おうとする子を育てるためには、子供たちが、共生の中で、自分の良さを伸ばし、温かな人間関係を築き上げていくことが大切である。本研究では、その育成のためには、「集団の中でのかかわり」、「連携と体験」が必要不可欠であると考え、次のような仮説を立てた。

### 仮説

- (1) 集団の中で、自分のかかわりの必要性や価値を学ぶことで、自他を大切にし、互いに高め合おうとする子供が育つであろう。
- (2) 家庭・地域との連携を通して、自然体験・社会体験活動を進めれば、子供は自分を見つめ、自分を大切にすることを学び、他を思いやり、互いに高め合う態度が育つであろう。

## 3 研究の手だて

仮説を検証するために、下に示す4つの手だてを講じた。

### (1) 自他を見つめ直す、道徳・エンカウターの授業

自他を大切にし、ともに高め合おうとする心の育成をはかるためには、子供たちに「自分はまわりの子にこんなことができた」、「自分も自分以外の人もみんな大切な人」などの思いを抱かせることが大切である。集団の中で自分のかかわりの必要性や価値を学ぶことを目標にした道徳の授業や、エンカウターを行うことで、求める子供像に近づくと考えた。

**(2) ペア活動による自分・仲間づくり**

本校では、児童会が主体となって、1・6年生、2・4年生、3・5年生が組になってペア活動をしている。この活動で、異学年の子供が、同じ目的をもち、協力する機会を設けることで、同学年だけでなく、ペア学年の間の中からも、集団の中での自分を見つめさせたいと考えた。

**(3) 宮小支援ボランティアの方との体験活動**

本校は、以前から宮小支援ボランティアの方々と共に、体験活動をすることに力を入れてきた。この自然体験や社会体験などを、意図的に年間活動計画の中に組み入れ、この体験から自他を見つめる態度の育成をはかった。また、この関わりの中で、学校関係者だけでなく、地域の多くの人から、自分が大切にされていることを味わわせたいと考えた。

**(4) 家庭・地域への広報活動**

家庭・地域の協力を得て、教育活動をしていくためには、保護者・地域の方々の思いや願いを学校は受け止め、それを生かしたり、学校での教育活動を発信したりして、理解してもらう必要がある。そのためには、学校・家庭・地域の三者間での連携を密にしなければならない。

本校では、ホームページを開設したり、「自分づくり・仲間づくり新聞」を発行したりすることで、保護者や地域の方々に学校での取り組みや、「心をはぐくむ推進委員会」で話し合われた内容を知らせるための工夫をした。

**4 研究の内容と考察**

**(1) 自他を見つめ直す、道徳・エンカウンター授業について**

**ア 4年生の実践「絵はがきと切手」(道徳)**

第4学年 道徳計画		
1 主 題 名 2-(3) 信頼・友情 資料名 絵はがきと切手		
2 本時の目標 ○ 友達と仲よく助け合い、互いに信頼し合おうとする気持ちを高める。		
段階	児童の活動	支援・留意点(○), 見取り(※)
つ か む (8)	1 友達があつてよかったなあと思った経験を発表する。 「友達っていいな。」と思うのは、どんなときですか。 ・ いっしょに遊んでいるとき。 ・ 勉強のわからないところを教えてください。	○ 「友達っていいな」と思った経験を発表させる。 ○ 心のノート42ページを見て、「友達がいてよかった」と感じる事例からそれぞれに友達の名前を想起する。
ふ か め	2 資料「絵はがきと切手」を読んで、ひろ子の気持ちについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">学習課題 ひろ子の気持ちを考えよう。</div>	○ 資料の前半部分を配付し、登場人物の気持ちを考えて音読させる。
る	3 正子から来た絵はがきを見たときのひろ子の気持ちを考える。 ・ うれしいなあ。早く返事を書きなぐては。 ・ わたしもいつてみたいな。	※ 本時の課題がつかめたか。(観察) ○ 絵はがきをもらったときの喜びとともに、代金不足というまどいの思いをとらえさせる。

4年生になると、自分自身のことだけではなく、自分のまわりの様子や友達の気持ちも少しずつ考えられるようになる。また、通学班や生活班が違って、性格や興味が似ているという理由で友達関係を構築しはじめる時期である。

そこで、帰りの会で、「今日のMVP」というコーナーを設けて、友達のよい行動を発表し合って賞賛する機会を設けている。本時の授業では、「友達っていいなあ」と感じた経験を発表した。次に資料「絵はがきと切手」を読んで、料金不足のはがきを送ってきた友達



に、本当のことを伝えるかどうかについて話し合った。「他にもまちがえて料金不足の手紙を送るかもしれない。」「できるだけ早く教えてあげたほうが親切」「お互いに注意できるのが本当の友達だ」などの発言が多く、本当のことを伝えてあげようとする児童が大勢を占めた。一方で、「自分が言われたらいやだ。友達が傷つくかもしれない」という友人関係にすごく慎重になっている女子児童も数名いた。意見を本音

で話し合う児童の姿が見られ、交友関係を考えるよい機会になった。

## イ 5年生の実践「いいところ探し（エンカウンター）」

### 第5学年 学級活動指導案

- 1 題材 いいとこさがし
- 2 本時の目標
  - 友達の良さを見つけてほめることができる。
  - 友達が見つけた自分の良さを知り、周りに受け入れられることの喜びを味わう。
- 3 準備
  - (教師) いいとこカード・シール (児童) 筆記用具
- 4 学習過程

段階	学習活動	教師の支援・留意点
つ	(ウォーミングアップ) 1 グループ作りをする。(一斉) ・「離れるパッ」のかけ声で2人組を作る。(5回)	★ 近くの子と2人組を作ったら背中合わせになり、「離れるパッ」とかけ声をかけたら、離れて違う子とまた背中合わせになるゲームをする。5回のうち1～2回は男女や親しくない子同士のペアを進んで作るようアドバイスし、できたペアを褒める。いろいろな子と2人組作りをすることによって人間関係を広げるようにさせたい。
	・4人組を作り輪になって座る。	○ 背中合わせの子と手をつなぎ、次に他の2人組と合体して4人組を作るようにする。男女混合のグループになるように助言する。グループができたならリーダーを決めるよう指示する。 ※進んでグループ作りに参加したか。(観察)
か	・リーダーはカードを取りに行く。(インストラクション)	○ やることを知らせず、期待を持たせる。
	む	2 本時の課題を知る。(一斉) ・カードに自分の名前を書く。 学習課題について聞く。
(8)	学習課題 友達のいいところをグループで協力して探そう	

5年生になると、委員会活動が始まったり、通学班の班長を任せられたりする。この時期は、交友関係が広くなり、活動の場も大きくなる。

しかし、互いに関わり合いながら生活する上では摩擦も生まれ、自分の思い通りにならないことも多く生まれてくる。一方、人との関わりは、自分の良さを認められることで自信につながり、勇気や耐性を向上させていくことができる。それは、助け合い、かばい合うという行動として表れ、友達の良さを知ることによって仲間意識を高めていくことができる。

5年生では、自分や友達の気持ちに敏感になることや、素直な言葉や表情で自分の気持ちを表現で

きるようになってほしいと願い、上の資料のようなエンカウンターを取り入れた学級活動を、授業参観日に行った。

友達のよいところを書き込んでいくことや、それを読んでさらに付け加えることは、その友達のことを深く理解しようという態度になったと思われる。また、自然教室の後に行ったので、「ダンスの振り付けを考えるのがよかった」とか「司会を上手にやっていた」など、いろいろな視点から書き込むことができ、自他を見つめるよい機会となった。

### (2) ペア活動による自分・仲間づくりについて

#### ペア活動の実践「いもほり」

宮田小学校では、ペア学年による活動が毎年盛んである。4月の名刺交換から始まり、5月のサツマイモの苗植え、6月のペア遊びなど盛りだくさんである。11月になると、春にペア学年で植えたサツマイモが、収穫の時期になる。子供たちはこの時期をとっても楽しみにしている。

3・5年生のペア学年では、サツマイモとともに収穫し、高学年の調理したサツマイモを、低学年とともに食べ、その後、ドッジボールなどをして遊んだ。5年生の感想には、「3年生も喜んでくれたので嬉しかった」や「ペアの子と仲良くできてよかった」など、満足した言葉を聞くことができた。

この活動を通して、協力することの大切さを知ったり、ともに尊重しようとする心が育ったりしたと考えられる。



ペア活動・いもほり



### (3) 宮小支援ボランティアの方との体験活動について

#### ア 支援ボランティアの方との打合せ

本校では、毎年、宮小支援ボランティアの方との打合せを行い、生活科や総合的な学習の時間などにおける支援を依頼している。本年度も、6月8日に本校において打合せが行われ、45人の支援ボランティアの方々からの協力が得られることになった。

ここでは、本年度の活動計画が立てられ、1年生の「草花遊び」、2年生の「町探検」、4年生の「藍染め」、5年生の「田植え」など、多種多様な体験活動の支援をしていただけたことが決まった。

#### イ 心をはぐくむ推進委員会の設置

地域と学校が連携をして、「自分づくり」や、「仲間づくり」ができるようにするために、「心をはぐくむ推進委員会」が、6月19日と11月9日に行われた。

会には、PTA、地域、児童、職員の代表がそれぞれ参加して、活動内容について話し合った。地域代表の方からは「お年寄りとのふれあいを児童会活動に含めたらよいのではないかな」など、意見が出された。

この会は、学期に1度開き、活動内容について、随時、検討していくことにした。

#### ウ 体験活動の実際

##### ① 1年生の実践「草花遊び」

###### 【活動のねらい】

- (1) 支援ボランティアの方々に草花遊びを教えていただくことにより、「自分もやってみたい。」という意欲を高め、『草花遊び』の楽しさを知る。
- (2) 身近な自然を探検し、自然とふれあうことにより、美しいものや自然に感動できる感性を高める。
- (3) 支援ボランティアの方々と交流することにより、人の温かさを感じ、お年寄りを尊敬する気持ちを育てる。
- (4) 支援ボランティアの方々と交流することにより、地域を身近に感じ、地域を愛する心を育てる。



草花遊びの体験活動は、2回に分けて行った。1回目は、木曾川の堤防の野原へ出かけ、草花を摘んで遊んだり、虫とたわむれたりしながら、体全体で自然を感じ取って活動した。友達と草花遊びを工夫したり、草花を紹介しあったりして、新たに交流を深めることもできた。

2回目は、体育館でいろいろな草花遊びを体験した。

#### 平成18年度 活動内容

4月	藍のお話・畑の準備（4年）
5月	草花遊び（1年）・町探検（3年） トンボ教室（4年）
6月	ウォーターランド観察会（4年）・町探検（2年） ヤゴ救出（4年）・田植え（5年）
7月	曼陀羅寺のお話（6年）・江南音頭（3年） 藍染め教室（4年）
9月	菊作り（6年）
10月	町探検（2年）・稲刈り（5年）
11月	大根の収穫（3年）・脱穀（5年） 戦争のお話（6年）
12月	ウォーターランド観察会（4年） 餅つき（5年）
1月	昔の遊び（1年）
2月	かがやき集会（全校） 宮田の昔（3年）・縄ない（5年）



教師の支援だけではなく、経験の豊富な支援ボランティアの方々に協力していただき、マキの葉の手裏剣、ササの葉舟、シロツメクサのかんむりや首飾り、オオバコのすもう、スキのてっぽう、カラスノエンドウの笛など、たくさんの遊びを楽しんだ。

今回の2回の活動を通して、地域の自然を生かし、その四季の移り変わりを感じながら、さまざまな遊びに挑戦し、自然と遊ぶ楽しさを味わい、自然への親しみを持つことができた。また、支援ボランティアの方々との関わりの中で、人とふれあう喜びや感謝の気持ちを持つことができ、地域の人たちと仲良く暮らしていこうとする心が育った。

## ② 2年生の実践「町探検」



2年生では、6月と10月の2回、生活科の町探検を、支援ボランティアの方に協力していただき、行うことができた。

1回目の6月は、子供たちにとって初めての町探検なので、各グループに1名ずつボランティアの方についていただいた。ボランティアの方は、ほとんどが古くから宮小学区にお住まいの方なので、地域のことをよく知っていて、いろいろと教えていただくことができた。また、ボランティアの方が作っている畑も探検場所の1つに入れ、そこで待機していただいて、

子供たちに実際の野菜を見せながらお話をしていただいた。

10月（2回目）の町探検では、できるだけ子供たちの力で探検をさせたいと考え、ボランティアの方についていただくのは2グループに1名とし、特に安全面での配慮をお願いした。おかげで、事故やけがもなく、楽しく探検を終えることができた。また、この経験を生かし、この後行われた社会見学でのグループ行動も協力してしっかり行えた。探検後、グループごとに探検した場所についての発表を行い、交流し合った。どのグループも探検して学習したことを、協力して分かりやすく発表することができた。

## ③ 3年生の実践「江南音頭」

社会科の学習目標「身近な地域や市の特色とよさを理解し、身近な地域や市に対する誇りと愛情を持つ」に関連し、市民に親しまれている「江南音頭」を覚え、発表しようという取り組みを行った。この取り組みは、本校で10年近く続いている。

本年度も運動会を本発表とした。そこで、1学期（7月）に、支援ボランティアさんを講師にお招きし、第1回「江南音頭」学習会を行い、9月には、第2回の練習会を運動場で行った。子供たちは、支援ボランティアの方たちの熱心な指導に耳を傾け、真剣に踊りをマスターしようとしていた。なかなかそろわなかった手拍子や振り付けが徐々にそろうようになり、ボランティアさんから「上手になったね」と、お褒めの言葉をいただいた。また、各家庭にも親子一緒での練習をお願いした。



運動会当日は、親子で楽しく江南音頭を踊ることができた。支援ボランティアさんにも踊りの輪の中に入れてもらい、楽しく踊っていただくことができた。

#### (4) 家庭・地域への広報活動について

##### ア ホームページの開設

家庭，地域との連携を深めるためには，学校が，まず，情報の発信元にならなくてはならない。本校では，本年度の9月からホームページを開設し，行事や体験活動，授業の様子などを紹介した。ホームページを開設するに当たっては，夏休みに現職教育を開き，作成方法などの研修会を行い，職員間で共通理解を図った。



保護者や地域の方々からは，「学校の取り組みがよく理解できた」，「子供の様子がよく分かるので，見るのがとても楽しみ」という声が聞かれた。

##### イ 「自分づくり・仲間づくりだより」の発行

毎月1回，「自分・仲間づくりだより」を発行し，家庭へ学校での活動内容などを紹介している。このことで，児童・保護者に「自分づくり・仲間づくり」の活動がより身近なものと感じられるようになり，関心が高まった。

#### 5 おわりに

本研究での実践を通し，子供たちは，自分自身を見つめたり，友達と協力することの大切さや楽しさを学んだりすることができた。これらの成果より，学校・家庭・地域と連携し，体験活動をすることの有用性や，人との関わり合いの中から自他を見つめることの大切さを実感することができた。また，このような活動を6年間継続的に行っていけば，主題に迫る子供を育成できることを確信した。



11月に支援ボランティアの方々の手によって「ふるさと宮田の神と仏とその祭り」という本が出版された。本には，出版のきっかけが「宮田小学校の総合学習のうちに，ボランティアの方々が，子供たちと一緒に地域を見学探索して歩いていて，宮田には多くの寺院や神社・神々のほころ，路傍には多くの石仏のあることを知り，それらにまつわる由来や言い伝えなどを含めて記録して後生に残すのがはじまりだった」と書かれていた。長きにわたって続けられてきた，学校・地域との連携が，別の場所で花開いたことは，とても嬉しいことである。今後も，現状に満足することなく，新しい時代に即した体験活動や道徳教育などを支援ボランティアの方々とともに考え，築きあげていきたい。

11月に支援ボランティアの方々の手によって「ふるさと宮田の神と仏とその祭り」という本が出版された。本には，出版のきっかけが「宮田小学校の総合学習のうちに，ボランティアの方々が，子供たちと一緒に地域を見学探索して歩いていて，宮田には多くの寺院や神社・神々のほころ，路傍には多くの石仏のあることを知り，それらにまつわる由来や言い伝えなどを含めて記録して後生に残すのがはじまりだった」と書かれていた。長きにわたって続けられてきた，学校・地域との連携が，別の場所で花開いたことは，とても嬉しいことである。今後も，現状に満足することなく，新しい時代に即した体験活動や道徳教育などを支援ボランティアの方々とともに考え，築きあげていきたい。